環 境 教 育

学校教育における環境教育

守谷市教育委員会

【国際的視点】
地球環境会議 ベオグラード憲章 アジェンダ 21 京都議定書 コペンハーゲン合意
【県教育指導方針】
環境教育の充実 ＜三つの視点＞ 「環境から学ぶ」 「環境について学ぶ」 「環境のために学ぶ」
【関係法令】
環境基本法 環境基本条例 学習指導要領

【目　　標】

環境問題に関心をもち，環境に対する人間の責任と役割を理解し，環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力を育成する。

【具体的視点】

関　　心：全環境とそれにかかわる問題に関する関心と感受性を身に付けること
知　　識：全環境とそれにかかわる問題及び人間の環境に対する厳しい責任や使命についての基本的な理解を身に付けること
態　　度：社会的価値や環境に対する強い感受性，環境の保護と改善に積極的に参加する意欲などを身に付けること
技　　能：環境問題を解決するための技能を身につけること
評価能力：環境状況の測定や教育のプログラムを生態学的・経済的・社会的美的その他の教育的見地にたって評価できること
参　　加：環境問題を解決するための行動を確実にするために，環境問題に関する責任と事態の緊急性についての認識を深めること

	小学校	中学校・高等学校
ね　ら　い	児童が身近な環境に意欲的にかかわり，問題を見いだし，考え判断し，よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度を育てること ① 豊かな感受性を育成すること ② 活動や体験を重視すること ③ 身近な問題を重視すること	環境問題の解決は，人類共通の課題であり，他人事ではなく自分自身にも関係があることを理解し，積極的に環境に働きかける態度を育てること
身に付けたい能力と態度	① 環境に対して積極的にかかわったり，環境を思いやったり，よりよくしようとする関心や意欲，態度など ② 環境とかかわり，それについて考えたり，判断したりする思考力や判断力，及び表現力など ③ 環境にかかわって課題を見付けたり，解決したり，創造したりするために必要な知識・理解や技能など	① 問題解決能力 ② 数理的能力 ③ 情報処理能力 ④ コミュニケーション能力 ⑤ 環境を評価する能力 ⑥ 自然や社会事象に対する関心，意欲，態度 ⑦ 主体的思考 ⑧ 社会的態度 ⑨ 他人の信念，意見に対する寛容

学校全体での取組み	各教科，道徳，特別活動及び総合的な学習の時間での実践 ・自然体験や社会体験活動の積極的導入 ・各教科等の環境教育関連単元の指導計画の作成 ・道徳「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」 ・外部人材等の積極的活用 ・総合的な学習の時間・・・各学校の創意工夫
学校教育，家庭教育，社会教育の連携	地域社会の自然探索会や美化活動等への積極的参加の推奨
発達の段階に応じた体系的な教育	「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点による位置付け
地域の実態に応じた取組み	「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え，足元から行動する）

環 境 教 育 の 実 践

守谷市立大井沢小学校　担当　久保宮　修子

1　はじめに

本校での環境教育の具体的な取り組みとして，一つ目は各教科，特別活動など総合的な活動の時間への位置づけを明確にして，その中で充実を図ること，二つ目は自然体験などを通して環境に対する豊かな感性を育成することである。

この目標のもとに，環境教育を実践してきた。

【大井沢の四季　掲示】

2　実　践

（１）学校美化活動

ア　美化活動

学年花壇での草花の栽培，除草，整備

イ　大掃除週間の設定・実施（学期末）

ウ　無言清掃週間

（２）児童会活動

ア　学年による清掃活動

イ　環境・美化委員会「学校花壇や草花の
プランターの整備」
「無言清掃強化週間活動」

【無言清掃強化週間活動】

ウ　飼育委員会「ウサギや魚の飼育」

エ　保健委員会「流しやトイレの清掃点検」

オ　広報委員会「正門掲示板予定表作り，
ポスター掲示と撤去」

カ　給食委員会「配膳台の整理整頓，ポスター作り」

キ　ボランティア委員会「緑・赤い羽根募金活動（ポスター，手紙による啓発活動）」
「落ち葉はき清掃活動」　「つくば竜巻義援金」
「ペットボトルのキャップ回収」
「複十字シール，はがきの募金呼びかけ」

【ペットボトルキャップ回収】

【赤い羽根募金活動】

（３）環境教育の啓発

ア　愛農活動「野菜や草花の栽培」

イ　各種作品募集への参加

ウ　教室や図書室の整備，自由研究作品の掲示

エ　クリーン大作戦

【クリーン大作戦】

（４）ＰＴＡ活動

ア　年４回の除草作業（ＰＴＡ整備部，職員，児童参加）

イ　ベルマーク集め（各教室にベルマーク箱の設置，回収，集計）

ウ　使用済みカートリッジ・書き損じはがきの回収

（５）国語科，生活科，理科，社会科，総合的な学習の時間における取り組み

学　年	教科・領域	学　習　内　容
第１学年	生活科 ＊ＯＨＬ＝大井沢ヒューマンライブラリー（人材バンク） 国語科	・一人一鉢での栽培と観察（アサガオ，チューリップ） ・野菜の栽培と観察（なす，ミニトマト） ・校庭，四季の里公園・板戸井公園での植物や昆虫などの観察・ふれあい（季節ごとに） ・落ち葉や木の実を使った制作とお店屋さん ・小動物とのふれあい（東武動物公園にて）
第２学年	国語科 生活科	・夏野菜と一人一鉢でのミニトマト栽培 ・さつまいもの栽培（植え付け，除草，収穫） ・立沢湿地での生き物さがし（ＯＨＬを活用して） ・校庭での植物や昆虫などの観察・ふれあい ・「ビーバーの大工事」を通して生き物の生態や環境を考える
第３学年	理科 社会科 総合的な学習の時間	・モンシロチョウの観察 ・オクラ，ひまわり，ホウセンカの観察 ・大井沢地区自然の植物・虫についての観察体験活動
第４学年	総合的な学習の時間 社会科　理科 国語科	・常総環境センター，上下水道見学 ・生き物を調べよう（年間を通して） ・いろいろな環境を守る工夫について調べよう
第５学年	総合的な学習の時間 社会科　理科 国語科	・立沢湿地内（田んぼ）での米作り体験 ・自動車を作る工場 ・わたしたちの国土と環境 ・インゲン豆，とうもろこし，大根，にんじんの栽培観察 ・森林のおくりもの
第６学年	理科　社会科 家庭科	・生物と地球の環境，ジャガイモの栽培・観察 ・近隣の人との生活を考えよう ・「つくろう　さわやかな生活」季節に合うくらし，快適な住み方について話し合おう ・世界の未来と日本の役割 ・未来に生かす自然のエネルギー ・リサイクル，鬼怒川絵画コンクール作品作成

３　考　察

・ＯＨＬに協力してくださる地域の方，ＧＴの方や保護者の方々と共に活動することにより，身近な自然との関わり方や自然の大切さ，素晴らしさを知り，楽しく積極的に活動することができた。

・低・中学年では，動植物とのふれあいを通して，自然に親しみ，身近な自然を大切にしようとする心情が育ち，中・高学年では，地域の人々とのふれあいを通して，環境を守るために自分たちができることを真剣に考えていく態度が育ってきている。

・環境・美化委員会の児童が中心となって全学年が無言清掃を行っている。強化週間には，清掃への取り組み状況をカードを使い記録したり，委員会の児童が呼びかけたりすることで学年の実態に合わせて無言を意識して清掃に取り組めるようになってきた。

４　課　題

・効果的な体験活動ができるように，地域や児童の実態に応じた年間指導計画の見直し，身近な自然や地域の環境を活用した教材開発，人材発掘を行い，よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図りたい。

環境教育の実践

守谷市立大野小学校　担当　小泉　正子

1　はじめに

本校では，環境教育の充実のため，計画的に実践活動を行ってきた。学年の発達段階に応じて体験活動を積み重ねることで，生き物や自然を大切にする態度や，身近な環境をよりよいものにしていこうとする態度を育てるようにしている。

本校の環境教育のねらい

・身近な環境の様子や問題等に関心をもち，環境に対する豊かな感受性を育てる。
・児童の発達段階に即して，環境問題等を改善しようとする態度や心情を育てる。
・草花の栽培や，動物の飼育活動を通じて，実践する力と意欲を育てる。

2　実践

（1）　学校全体での取り組み

①　児童会活動

・飼育委員会を中心にウサギの飼育活動を行う。
・園芸委員会で花壇の整備を行う。
・委員会活動や児童有志による落ち葉掃きを行う。

②　環境に関する啓発活動

地球温暖化と省エネ対応に関した取り組みを行う。

・休み時間や給食時の消灯をこまめに行い，無駄な電気を消す。
・各種環境啓発ポスターへの積極的な応募を行う。

③　PTA 活動

・ベルマークの収集を行い，備品を購入する。
・校内奉仕作業（年１回）を行う。

④　米の栽培

全児童で米の栽培に取り組み，秋の収穫祭で米の栽培に関する発表を行い，収穫を祝って餅を食べる。

（2）　各学年での取り組み

①　１年生

・アサガオやチューリップの栽培と観察をする。（生活科）
・松ぼっくりを使った作品づくりをする。（生活科）
・稲の種まきをする。（生活科）

②　２年生

・ミニトマトの栽培をする。（生活科）
・生き物の飼育観察をする。（生活科）
・稲の種まきをする。（生活科）

③　３年生

・モンシロチョウやアゲハチョウの飼育と観察をする。（理科）

・ヒマワリやホウセンカの栽培と観察をする。（理科）

・スーパーマーケット，地域の工場の見学をし，リサイクル等の実践と工夫を知る。（社会）

・脱穀の体験をする。（総合）

④　４年生

・ツルレイシの栽培と観察をする。（理科）

・常総環境センターや上下水道事務所の見学を行う。（社会）

・米作り…種まきから収穫まで「大野小協力の会」「大野地区田園環境保全活動組織（EPOP)」の方々の指導を受けながら，半年かけて体験する。（総合）

⑤　５年生

・インゲン豆の栽培と観察をする。（理科）

・田植えを行う。（総合）

・学区内河川敷のクリーン作戦を行う。（総合）

・環境新聞作りを行う。（総合）

⑥　６年生

・ジャガイモの栽培と観察を行う。（理科）

・稲刈り，おだがけを行う。（総合）

〈米づくり体験～稲刈りの様子〉

〈生活科球根植えの様子〉

３　考察

・　全校で米づくりに関わり，各学年で植物を育てる活動や身近な生き物を飼育する活動に取り組むことで自然に親しんだり，自然を大切にしようとしたりする態度を育てることができた。

・　委員会活動を中心とした校内の環境整備や有志による落ち葉掃き等の活動により，ボランティアの精神を育むことができた。

４　課題

・　環境問題に関心を持ち，身近な環境を守ったり，より良いものにしようとしたりする意識や態度を育てていくための取り組みの工夫をする必要がある。

環境教育の実践

守谷市立高野小学校　　梅澤　真紀子

1　はじめに

本校は豊かな自然に恵まれている。校庭の南側には山があり，急な斜面をロープを伝って登ることができる。緑の季節には，山の隣の広い斜面で芝滑りができる。また，校庭の東側からは，広大な水田を眺められ，四季折々の景色を楽しむことができる。こうした身近な自然と触れ合う体験を通して，自然環境への興味・関心を高めるとともに，自主的・積極的に環境保全活動に取り組むことができる児童の育成を目指して環境教育を進めてきた。

2　実践

（1）各学年の取り組み

①　低学年

低学年では，生活科の学習を中心に校庭の山で遊んだり，校庭や近隣の公園を探検して四季の変化に気づいたり，一人一鉢栽培で植物を育てたりする活動を通して，自然のおもしろさや楽しさ，大切さを感じることができるような体験活動を多く取り入れている。

１・２年　生活科
「１年生と遊ぼう」

１・２年　生活科
「公園探検」

２年　生活科
「校庭探検」

②　中学年

中学年では，理科や社会科，総合的な学習の時間において環境教育を取り入れている。理科では，生物と環境との関わりを学習し，社会科や総合的な学習の時間では，「高野史跡めぐり」や「町探検」「防災教育」を通して，故郷の自然を大切にする心の育成に取り組んでいる。

３年　社会科
「町探検」

３年　総合的な学習の時間
「高野史跡めぐり」

４年　社会科
「水道事務所見学」

③　高学年

高学年においても，理科や社会科，総合的な学習の時間に環境教育を取り入れている。理科では，植物の成長や動物の誕生の学習を通して，植物や動物が自然と深い関わりがあることを学習し，社会科では，自然環境が人々の生活や産業と密接に関連をもっていることを学習する。また，総合的な学習の時間には「米作り体験」を行うことで，人々の努力や苦労についても気づくこと

ができるようにし，自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいこうとする児童の育成を目指している。

５年　総合的な学習の時間
「米作り体験」

（２）児童会活動の取り組み

①　委員会活動

４つの委員会において，環境教育に深く関わった活動を行っている。各委員会とも，児童の自主性を大切にし，児童の話し合いの中から活動内容を決定している。

ア　栽培委員会　・花壇・プランターの整備

イ　ボランティア委員会

・ペットボトルキャップ回収

・緑の羽根募金活動

ウ　飼育委員会　・生き物の飼育

エ　環境委員会　・校内落ち葉掃き

飼育委員会（コジュケイの世話）

②　クラブ活動

野外活動クラブでは，自然環境を生かした様々な活動を行い，児童の自然環境への興味関心を高めている。

・春　校内・校外探検

・夏　ザリガニ釣り

・秋　魚釣り・芝滑り（校庭の山）

・冬　スモーク作り

野外活動クラブ（ザリガニ釣り）

３　考察

学校内外の豊かな自然環境を活用して，各学年の発達段階に応じた学習を取り入れることができた。低学年では，自然と触れ合う遊びや植物の栽培活動などの体験活動を通して，児童は自然環境へ興味・関心をもつことができた。中学年では，地域の史跡や歴史を学習する中で，地域のボランティアの方々の話を聞き，故郷の歴史ある自然を大切に守ってきた人々の思いを知り，故郷の自然を大切にする心を育むことができた。高学年では，各教科の学習や米作り体験活動，児童会活動を通して，自然環境が自分たちの生活に深く関わっていることを学び，進んで環境保全に努めていかなければならないという意識を高めることができた。

４　課題

環境教育は，児童の発達段階によって身に付けるべき能力があると考えるが，学年間・教科間での連携を図っていくことが求められている。また，環境保全のための取り組みは，日常生活においても大切であるため，家庭や地域社会との連携も図っていきたいと考える。

環境教育の実践

守谷市立守谷小学校　担当　澁佐　治香

1　はじめに

本校は，今年度の夏に新校舎が完成し，２学期から新校舎で生活することになった。完成した新校舎は，木造でありながら最新技術を導入することによって，児童の健康安全や環境に配慮した木の学校となった。木の香りや木の温かみを感じることができる。また，本校の周りは，宅地造成が進んでいるが森林公園や城址公園など豊かな自然もたくさん残っている。

校舎は完成したが，校庭は一部がまだ工事中であり使用が制限されている。限られた環境の中でも各教科や総合的な学習の時間などを通して環境教育に取り組んできた。体験活動から興味関心をもち，課題を立て，それを調べて発表してきた。

2　実践

（1）　学校全体の取り組みについて

委員会活動	ボランティア	・手足の不自由な子どもを育てる運動（友情の絵はがき） ・緑の羽根募金活動，赤い羽根募金活動 ・エコキャップ運動
	栽培	・花壇の管理（除草，水やり） ・パンジー，サルビア，マリーゴールド，ノースポール，ガーベラ植え ・落ち葉掃き
	整備	・校内除草，落ち葉掃き活動 ・朝の昇降口清掃 ・各学級の掃除用具入れの点検
ボランティア活動		・八坂神社境内の落ち葉掃き活動

（2）　各学年の学習での取り組みについて

学　年	教科・領域	学　習　内　容
１学年	生活科	・一人一鉢（アサガオ，チューリップの栽培） ・小動物とのふれあい（校外学習東武動物公園） ・森林公園探検…秋（虫や草花と遊ぼう）
第２学年	生活科	・ミニトマトの栽培 ・生き物とのふれあい ・自然博物館展示見学 ・町探検
第３学年	総合的な学習 社会科 理科	・見つけよう！守谷のひみつ（学区探検，八坂神社） ・小さな鳥の資料館（守小まつりでの触れ合い） ・校外学習（アサヒビール工場，スーパーマーケットなどの見学） ・モンシロチョウの観察と飼育 ・ホウセンカ，ひまわりの観察と栽培 ・筑波山での自然体験
第４学年	総合的な学習 理科 社会科	・キッズミッションへの取り組み ・環境に関する新聞作り ・ツルレイシの観察と栽培 ・水道事務所見学，消防署見学 常総環境センター見学
第５学年	総合的な学習 社会科 国語科 理科	・バケツ稲栽培・八坂神社の清掃・スバル自動車見学 ・わたしたちの生活と環境，米作りの盛んな庄内平野 ・森林のおくりもの ・植物の生長

学　年	教科・領域	学　習　内　容
第６学年	国語 家庭科 理科	・「未来に生かす　自然エネルギー」の学習で持続可能な社会への取り組みを調べ，リーフレットにまとめた。 ・自然と生き物の関わり新聞発行「わたしたちの生活と環境」 ・自分ができることを見つけてやってみよう （生活から出るゴミ、排水を少なくしよう） ・ジャガイモの栽培

（３）　実践例

３年生の実践例

～植物を育てよう～

＜１つにまとめる力や表現する力を育てるための具体的な取り組み＞

・１つの鉢植えにホウセンカとヒマワリの種を１つずつまく。
・自分の育てているものだけを比較するだけではなく，グループの中でも比較をさせる。
・普段見えない根の部分を土から抜いて根の様子も比較させた。
・観察カードにかくのではなく，観察して分かったことをグループで話し合って大きな模造紙にまとめさせる。予想はノートにかかせた。

【記録した例】

・種，子葉，葉，茎，根，花，実などの生の様子
・種をまいてから,どれくらいで子葉が出てくるのか
・葉や花，実の数
・茎の長さ

※根を実際に調べる活動を通して，進んで雑草を調べる児童が出てきた。調べるときに，根を傷つけないように優しく扱わなければならないことも学んだ。観察をして，話し合ってまとめていくうちに「理科っておもしろいね」とつぶやく児童が増えた。また，分かったことを短い言葉でまとめる力がつき，理由をきちんと言えるようになった。

３　考察

低学年では，身近な動植物とのふれあいを通して自然を大切にしようとする心情が育ち，中・高学年では，各教科や体験学習を通して，環境を守るために自分たちができることを真剣に考えていく態度が育ってきている。学んだことをまとめたり，みんなの前で発表したりする活動を通して表現力が育ってきている。また，学んで得たことを実生活に生かすためにどうしたら良いのかを考える必要があると言える。

４　今後の課題

・効果的な体験活動ができるように年間指導計画の見直し
・身近な自然や地域を活用した教材開発
・環境保全についての教職員の意識の高揚を図る

環境教育の実践

守谷市立守谷小学校　担当　澁佐　治香

1　はじめに

本校は，今年度の夏に新校舎が完成し，２学期から新校舎で生活することになった。完成した新校舎は，木造でありながら最新技術を導入することによって，児童の健康安全や環境に配慮した木の学校となった。木の香りや木の温かみを感じることができる。また，本校の周りは，宅地造成が進んでいるが森林公園や城址公園など豊かな自然もたくさん残っている。

校舎は完成したが，校庭は一部がまだ工事中であり使用が制限されている。限られた環境の中でも各教科や総合的な学習の時間などを通して環境教育に取り組んできた。体験活動から興味関心をもち，課題を立て，それを調べて発表してきた。

2　実践

（1）　学校全体の取り組みについて

委員会活動	ボランティア	・手足の不自由な子どもを育てる運動（友情の絵はがき） ・緑の羽根募金活動，赤い羽根募金活動 ・エコキャップ運動
	栽培	・花壇の管理（除草，水やり） ・パンジー，サルビア，マリーゴールド，ノースポール，ガーベラ植え ・落ち葉掃き
	整備	・校内除草，落ち葉掃き活動 ・朝の昇降口清掃 ・各学級の掃除用具入れの点検
ボランティア活動		・八坂神社境内の落ち葉掃き活動

（2）　各学年の学習での取り組みについて

学　年	教科・領域	学　習　内　容
１学年	生活科	・一人一鉢（アサガオ，チューリップの栽培） ・小動物とのふれあい（校外学習東武動物公園） ・森林公園探検…秋（虫や草花と遊ぼう）
第２学年	生活科	・ミニトマトの栽培 ・生き物とのふれあい ・自然博物館展示見学 ・町探検
第３学年	総合的な学習 社会科 理科	・見つけよう！守谷のひみつ（学区探検，八坂神社） ・小さな鳥の資料館（守小まつりでの触れ合い） ・校外学習（アサヒビール工場，スーパーマーケットなどの見学） ・モンシロチョウの観察と飼育 ・ホウセンカ，ひまわりの観察と栽培 ・筑波山での自然体験
第４学年	総合的な学習 理科 社会科	・キッズミッションへの取り組み ・環境に関する新聞作り ・ツルレイシの観察と栽培 ・水道事務所見学，消防署見学 常総環境センター見学
第５学年	総合的な学習 社会科 国語科 理科	・バケツ稲栽培・八坂神社の清掃・スバル自動車見学 ・わたしたちの生活と環境，米作りの盛んな庄内平野 ・森林のおくりもの ・植物の生長

学　年	教科・領域	学　習　内　容
第６学年	国語 家庭科 理科	・「未来に生かす　自然エネルギー」の学習で持続可能な社会への取り組みを調べ，リーフレットにまとめた。 ・自然と生き物の関わり新聞発行「わたしたちの生活と環境」 ・自分ができることを見つけてやってみよう （生活から出るゴミ、排水を少なくしよう） ・ジャガイモの栽培

（３）　実践例

３年生の実践例

～植物を育てよう～

＜１つにまとめる力や表現する力を育てるための具体的な取り組み＞

・１つの鉢植えにホウセンカとヒマワリの種を１つずつまく。
・自分の育てているものだけを比較するだけではなく，グループの中でも比較をさせる。
・普段見えない根の部分を土から抜いて根の様子も比較させた。
・観察カードにかくのではなく，観察して分かったことをグループで話し合って大きな模造紙にまとめさせる。予想はノートにかかせた。

【記録した例】

・種，子葉，葉，茎，根，花，実などの生の様子
・種をまいてから,どれくらいで子葉が出てくるのか
・葉や花，実の数
・茎の長さ

※根を実際に調べる活動を通して，進んで雑草を調べる児童が出てきた。調べるときに，根を傷つけないように優しく扱わなければならないことも学んだ。観察をして，話し合ってまとめていくうちに「理科っておもしろいね」とつぶやく児童が増えた。また，分かったことを短い言葉でまとめる力がつき，理由をきちんと言えるようになった。

３　考察

低学年では，身近な動植物とのふれあいを通して自然を大切にしようとする心情が育ち，中・高学年では，各教科や体験学習を通して，環境を守るために自分たちができることを真剣に考えていく態度が育ってきている。学んだことをまとめたり，みんなの前で発表したりする活動を通して表現力が育ってきている。また，学んで得たことを実生活に生かすためにどうしたら良いのかを考える必要があると言える。

４　今後の課題

・効果的な体験活動ができるように年間指導計画の見直し
・身近な自然や地域を活用した教材開発
・環境保全についての教職員の意識の高揚を図る

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立黒内小学校　　會澤　則子

1　はじめに

本校では，「環境教育の全体計画」をもとに，地域の環境を生かしながら，各教科・特別活動・道徳・総合的な学習の時間等，学校の教育活動全体を通して，環境教育に取り組んできた。本校は土塔森林公園に隣接し，児童は季節毎に変化する森林の様子を目にしながら生活している。さらに，敷地内にはたくさんの花壇や樹木，畑や休耕田があり，活動や体験を通してこれらと関わり，豊かな感性を育むことができる環境にある。今年度本校では下記のような実践を行った。

2　実践

（1）　土塔森林公園との関わり

ア　里親事業を通して

４年生は，６月に保護団体「山ゆりの会」の方々と共に，蕾をつけ始めた山ゆりの周囲を棒やひもで囲うなどの保護活動を実施した。夏には市の花「やまゆり」の大輪の花がたくさん咲いた。

イ　生活科を通して

季節の変化を感じながら遊んだり，木々や草花，小さな生き物たちの観察や採集をしたり，自然を生かした制作活動をしたりするなど，自然に親しむ活動を実施した。

【風を感じて遊ぶ】

【木の実や葉，草を使った
アサガオ蔓のリースつくり】

【虫取り】

（2）　花壇や樹木との関わり

ア　委員会活動や清掃活動を通して

本校にはたくさんの花壇があり，四季折々の花が目を楽しませてくれる。花の植えかえや後始末は園芸委員会の児童が中心になって行っている。今年は，近くの商店から「花の輪運動」という社会活動の一環としてたくさんの花苗が贈られ，児童の手によって花壇に植えられた。また，全学級に校庭清掃担当者がおり，花壇の除草や落ち葉掃きに取り組んでいる。

イ　高学年のボランティア活動を通して

敷地内には，桜や銀杏などの大きな木があり季節の移り変わりを知らせてくれる。秋も深くなると通学路はたくさんの落ち葉で埋まるが，落ち葉の季節が終わるまで高学年を中心としたボランティアが毎朝，清掃活動に取り組んでいる。

【花の輪運動】

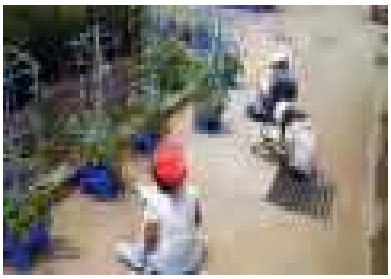
【落ち葉掃き】

（３）　グリーンカーテン作り

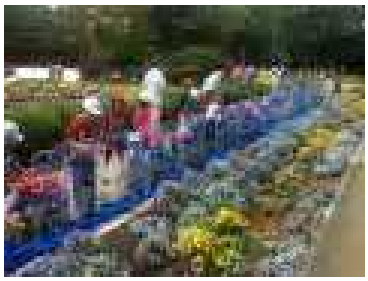
４年生は，理科学習の一環としてグリーンカーテン作りにも取り組んだ。一人一鉢でツルレイシの種を蒔き，花壇に移植して苗毎に名札を付けて世話をした。秋には２階のベランダに届くまでになり，県の「緑のカーテンコンテスト」で優秀賞を受賞した。児童は，グリーンカーテン作りが地球温暖化を防ぐ活動に繋がっていたことを知り，自分たちにもできるエコ活動への意欲を高めることができた。

（４）　栽培活動

学年毎に畑や鉢を使って花や野菜等を栽培し，花を楽しんだり観察したり，収穫して試食したりした。「わたしの○○」を育てることを通して，育ち具合を気にしたり天気や水やりの心配をしたりしながら世話をする姿が見られた。



【１年　あさがお】



【２年　夏野菜】

【３年　ひまわり】

【４年　そば】

【５年　稲の刈り取り】

【６年　綿花】

（５）　その他の取り組み

誰でもできる身近なエコ活動ということで，ペットボトルキャップやインクカートリッジの回収に協力している。また，各学級で，毎日の給食時に出るストローの空き袋を資源ゴミとして分別回収する等，一人一人が「地球にやさしく」を意識して取り組んでいる。

３　考察

自然の中で思い切り遊んだり，小さな動植物と触れ合ったり世話をしたりすることは「自然を大切にしたい」という思いにつながり，ひいては地球規模で叫ばれる環境保護にもつながるものと考えて指導してきた。児童は，森林公園や学校敷地内での遊び，自然観察，栽培活動，清掃活動等を通して，自然に親しみながら楽しく活動してきた。しかし，放射線の心配から水田での稲作が中止となったり草原での活動が制限された時期があったりしたこともあり，自然を大切にしよう，自然を守るためにできることはしようという気もちが強くなってきているように思われる。

４　課題

（１）地域や各機関との連携を図ったゲストティーチャーの活用

（２）児童と共に実践可能なエコ活動の開発

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立御所ケ丘小学校　担当　武田　久枝

1　はじめに

本校では，環境教育の充実を計画的に実践活動を行ってきた。ねらいを明確にし体験的な活動を積み重ねることで，生き物や自然を大切にする態度や身近な環境を自分たちの生活と結び付けて見つめ，より良くしていこうとする実践的な態度の育成を目指している。

なお，本校が目指す児童の姿は次のとおりである。

○低学年

・自然に親しみ，自然のよさの体験を通して知る。

・植物の世話を通し，生命の尊さを知る。

○中学年

・身近な地域の自然に触れ，進んでよりよい環境にしようとする。

・資源の有限性を知り，ものを大切にする必要性を知る。

○高学年

・自然の生態系を学習し，環境を保全・改善しようとする。

・身近な環境問題に関心を持ち，進んで解決方法を考え実践する。

2　実践

（1）学校全体での取り組み

①　各学年での活動

・学校花壇，学年花壇の草花の栽培と除草作業

・３～６年生による，校庭及び街路樹周辺の落ち葉はきボランティア活動

②　委員会活動（環境教育に関するもののみ）

・園芸委員会・・・学年花壇作り準備，学校花壇作り，除草，水まき

公園の里親事業（苗の移植，水まき，除草）

（2）各学年での取り組み

①　１年生

・アサガオ・チューリップ・ヒヤシンスの栽培と観察

・校内，通学路での自然観察

・立沢公園での自然に親しむ活動

②　２年生

・夏野菜の栽培収穫と観察

・春や秋の町探検での自然観察

＜１年生の自然観察＞

③　３年生

・オクラ栽培
・ホウセンカやヒマワリの栽培
・モンシロチョウの飼育

＜３年生のオクラ栽培＞

④　４年生

・ツルレイシの栽培とみどりのカーテン
・常総環境センターや浄水場の見学
・環境問題についての調べ学習
・キッズミッション「エコな暮らし」（外部講師）
・省エネ教室（外部講師）

＜４年生の環境センター＞

＜４年生の省エネ教室＞

⑤　５年生

・「里山における３小学校合同の米作り」活動への参加
・収穫した米を使っての家庭科調理実習
・総合的な学習の時間における食の大切さをまとめる学習
・ジャガイモの植え付け体験

⑥　６年生

・ジャガイモの栽培と観察
・環境やエネルギーについての学習

＜５年生田植え教室＞

３　考察

児童一人一人が環境に関わる身近な活動を通して，自分たちを取り囲む環境に親しみを持ち，大切にしようとする態度が育ってきている。低学年では身近な野菜の栽培や公園探検などを通し，自然の美しさや豊かさを感じる心情が育ち，高学年になると自分と環境との関わりを真剣に考えていく態度が養われてきた。また，環境を守るために自分たちにできる活動を考え，公園里親活動や落ち葉はきなどを進んで行うことができた。

４　課題

（１）効果的な体験活動を取り入れた年間指導計画の見直しと具体的実践活動の工夫
（２）教科，総合的な学習の時間，道徳，特別活動と環境教育との関連の明確化と教材の開発
（３）直接的な自然体験の実施や環境問題に取り組む専門家や地域の人々などのゲストティーチャーの活用

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立郷州小学校　担当　木澤じゅん子

１　はじめに
本校では，環境教育を以下の目標で実践している。
（１）環境とそれに関わる問題に気付き，関心を持つとともに，環境保全のために必要な知識・技能・実践する態度を育てる。
（２）ボランティア活動や特別活動などの体験を通して，環境保全に関しての実践活動力を身に付けさせる。
（３）道徳教育や各教科との関連を図り，地域の環境や校外学習での体験を通して，自然の美しさや偉大さを知り，自然を愛する豊かな心を育てる。

２　実　践
（１）学校美化活動
①美化活動
・校内にある花壇での草花栽培，除草，整備，一人一鉢（プランター）草花栽培
②郷州ピカピカ大作戦
・学級ごとに，毎学期末の大掃除週間
③各教室・通路の環境整備
・各学年で行った環境に関する学習の振り返り等をパネルにまとめ，各教室や通路，サポータールーム・会議室等に掲示
④教科に関連した活動
・各教科に，環境に関する内容がある。その発展として環境活動を行う。
・２年生の生活科で校庭の自然を生かした学習を行う。
・４年生の総合的な学習において，親子で「ごみダイエット」のテーマで環境について学ぶ。
（２）委員会活動
①計画・ボランティア委員会
エコキャップ回収,緑の羽根募金，友情のはがきの募金呼びかけ，使用済みカートリッジ回収，ベルマークの回収・整理
②給食委員会　　給食用ストロー袋の回収
③掲示委員会　　季節に合った掲示物の作成・掲示，月の行事予定表作り，ポスターの掲示と張り替え
④栽培委員会　　季節の草花の栽培とプランター作り，水やり

（３）縦割り班活動（キッズ活動）
①クリーン作戦
ロング昼休みを利用して，６月に校舎内の廊下や階段の清掃を行った。その際,各家庭で使わなくなったスポンジやタオルなどを持参し,清掃に活用した。上級生をリーダーとして縦割りキッズ班で意欲的な活動ができた。
②新聞紙工作
２月の節分を意識し,縦割りキッズ班で新聞紙で「鬼のお面作り」を行った。新聞紙を活用し,上級生と下級生が協力し合って楽しく活動できた。

【クリーン作戦】

（４）ＰＴＡ・スクールサポーターの活動
①円形花壇の整備
ＰＴＡの協力のもと,ひまわり・サルビアの苗を植えてもらい,花壇が整備された。
②ＰＴＡの協力による校舎内の掲示物
環境整備委員会やＰＴＡの協力のもとに，廊下や階段にクイズや文学関連の掲示物を作成・掲示を行っている。
③ベルマークの回収・集計
各教室にベルマークの箱を設置し，月１回，回収と集計を行っている。
（＊この活動は，児童による計画・ボランティア委員会と協力し実施）

【一人一鉢（プランター）】

（５）地域交流

公園里親事業として学校隣のみずき野中央公園に，ベコニアやパンジーの花を植えたプランターを育て設置した。栽培委員のボランティア活動として実施され，地域の環境美化と交流を促進し，植物を大切にする心を育てることができた。

（６）学習活動

＊各学年が各教科にわたり，様々な環境に関する学習に取り組んだ。以下は各学年の学習活動の一例である。

学　年	教　　科	活　動　内　容	地域・サポーター等 連携機関
１学年	生活科 図　工	・アサガオを育てよう ・学校探検 ・学校紹介(みずき野幼稚園児に) ・アサガオのリースを作ろう ・秋の落ち葉で小物作り ・一人一鉢（プランター）	・保護者 ・みずき野幼稚園
２学年	国　語 生活科	・野菜を育てよう （ミニトマト,チンゲンサイ,キャベツ） ・町探険で絵地図作り ・学校の春夏秋冬をみつけよう	・スクールサポーター ・保護者
３学年	総合的な 学習	・町探検をしよう ・野鳥観察会	・保護者 ・ゲストティーチャー
４学年	総合的な 学習	・《ごみダイエット大作戦》をテーマに環境についての個人テーマの追究とレポート作成及び新聞作り ・親子でゴミを仕分けよう。	・生活環境課 ・スクールサポーター ・保護者
５学年	社会 国語	・バケツ稲作り ・環境問題リーフレット作り （地球温暖化,外来生物,大気と水,脱原発など）	・スクールサポーター
６学年	家庭科 国語	・いらない服を利用した服のリフォーム ・再生可能エネルギーの文章を読み,「未来に生かすエネルギー」について話し合う。	・親子活動 ・スクールサポーター

３　考　察

（１）各学年が各教科との関連を図り，単元の内容及び発展学習として環境学習を行うことができ，自然のよさを感じたり自然に感謝する心を育むことができた。

（２）地域の自然，人々との出会い，触れ合いなど，身近な事柄から学習することで，地域のよさや自然の素晴らしさに気づくことができた。

（３）縦割り班活動（キッズ活動）では，校舎内美化や新聞紙工作を通して，異学年との交流を図り，楽しい活動ができた。

（４）ゲストティーチャーや地域サポーター，保護者の方々との活動を多くもつことにより，安心して活動したり，家庭でも環境について話題にしたりすることができた。

４　課　題

（１）より良い環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図る。及び身近な自然に対する興味関心を高める手立てを考える。

（２）教科，道徳，特別活動と環境教育の関連を明確にし，各学年ごとの内容のつながりや効果的な学習形態の工夫を考える。

（３）地域や各機関との関連を図り，より充実した環境整備を図る。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立松前台小学校　担当　猪田　正樹

1　はじめに

本校は守谷市の北西に位置している。松前台１丁目から７丁目は住宅地であり，北側に鬼怒川が流れ，それに接して大山新田の自然豊かな地域がある。また，大山公園などの自然を生かした公園もあり，落ち着いた環境の中で教育活動がすすめられている。

2　環境教育の目標

○　身近な地域の自然や教育力を生かしながら，体験活動を通して環境への関心を高める。
○　自分と環境との関わりについて考え，環境保全に関する知識と態度を育てる。
○　美化活動，奉仕活動への積極的な参加を通して実践力を育てる。

3　本年度の実践

（1）美化活動

①　清掃活動

・無言清掃への取り組み（マスクを着用　時間いっぱい）
・縦割り班での清掃（にこにこタイム　毎月第１第２水曜日）
・東門付近の歩道，大山公園の落ち葉はき

街路樹の除草作業

②　委員会活動

・飼育・栽培委員会の花の栽培（土づくり，花植え，水やり，除草などの日常活動）
・守谷市公園里親事業への参加（街路樹への花の植え付け，除草，水やり）
・ボランティア委員会のリサイクル活動（ペットボトルキャップの回収　緑の羽募金活動）

（2）学習活動

学年	教科・領域	学習活動における取り組み
1年	生活科	○　花の栽培（あさがお，チューリップ，水仙，クロッカス） ○　落花生・イチゴの栽培 ○　木の葉・木の実で作品作り，あさがおのつるでリース作り ○　大山公園での虫や木の観察
2年	生活科	○　野菜の栽培 （ミニトマト（１人一鉢），なす，ピーマン，かぼちゃ，オクラ　など） ○　里山の自然観察，ザリガニつり
3年	理科 総合 理科	○　花の栽培（ひまわり，ホウセンカ） ○　自然発見（虫の観察） ○　モンシロチョウの飼育

学年	教科・領域	学習活動における取り組み
4年	社会科	○　下水道浄化センター，常総環境センター見学 ・微生物の働きによって下水が浄化されていく過程を学んだ。各自がテーマを決めて調べ学習を行い，発表し合った。 ・環境センターでは，守谷市のごみの処理とリサイクルの取り組みについて学んだ。
	総合	○　湖上体験 ・県の事業である湖上体験で，霞ヶ浦の水質やその保全のための取り組みについて学んだ。
	理科	○　ツルレイシの栽培（グリーンカーテン作り）
5年	総合	○　米の栽培 ・バケツ稲作りと里山での米作りを行った。米作りを通じて，人と環境のかかわりやその問題点について調べ，発表し合った。
6年	理科 社会科	○　生き物の環境 ・地球の環境について調べ，自分たちにできることは何かを考え，まとめた。

２年生　立沢里山自然観察

４年生　霞ヶ浦湖上体験

５年生　里山米作り体験

4　成果

○　地域の自然や公園，立沢の里山の環境を生かした活動をすすめ，環境への関心を高めることができた。

○　常総環境センター，下水道浄化センター見学，霞ヶ浦湖体験などで，専門的で充実した活動を行い，環境保全に関する知識と態度を育てることができた。

○　日常の美化活動で，無言清掃の取り組みを学校全体ですすめ，実践力を育てることができた。

5　今後の課題

○　環境教育に対する理解を深め，学校全体として環境教育に取り組んでいく必要がある。

○　教科，領域，特別活動の中で環境教育の位置付けをしていく。

○　児童の野外活動や体験活動を今後も多く取り入れていく。

環 境 教 育 の 実 践

守谷市立松ケ丘小学校　担当　鈴木ひろみ

1　はじめに

環境教育の充実は，守谷市学校教育プラン「ニュージェネレーションプラン」の一つとして，環境意識を高め，よりよい環境を創造することと合わせて示されている。そこで，本市の中では自然とのふれあいが少ない地域の一つの本校であるが，学校経営方針の重点施策の一つとして，「よりよい環境を創造していこうとする実践的な態度の育成」を目指している。本校の特性を考え，教職員としての専門性を生かし実践をすすめている。

2　実践

（1）　各学年の実践

学年	教科・領域	学　習　活　動
1年	生活科	・あさがおの一人一鉢栽培と観察（チューリップの栽培と観察）をした。 あさがおの種を取った後のつるでリースづくりをした。 ・観察園で,おしろい花・ふうせんかずら・マリーゴールド・ひまわりの栽培を行った。 ・公園探検で季節の移り変わりを観察し,虫取りとどんぐり拾いをした。
2年	生活科	・学校周辺や校庭で,季節ごとに花や木,生き物を観察した。 ・各自が選んだ野菜の栽培を行い,定期的に観察や記録をした。 ・お店探検の際に,公園に立ち寄り,秋を感じることができ,季節の移り変わりに気づくことができた。
3年	社会科	・スーパーマーケットの学習で,スーパーマーケットではリサイクルボックスを設置したり,レジ袋を使わないようにしたりしていることを学んだ。 ・醤油工場見学ではごみの活用法やもろみをしぼる布を何度も使うこと等を知り,さまざまな環境への取り組みを学んだ。 ・日常生活において,ごみを分別して捨てることを徹底して指導している。
4年	霞ヶ浦湖上体験（１０月） 社会科	・霞ヶ浦の水質検査を通して,昔はきれいな水であったことを知り，自分たちでできる環境への取り組みを学習することができた。 ・上下水道事務所の見学を通して，利根川や地下水からの水を使っていることや汚水をきれいにして川に戻すことを知り，きれいな環境を守る大切さを学んだ。 ・環境センター見学を通して，毎日出るゴミの処理の仕方を学び，センターの方の話を聞くことで，ゴミを減らそうとする意識が高まった。
5年	国語科 理科	・「森林のおくりもの」を学習し,森林を守ることは,自分たちの生活環境を守ることであり,森林を大切にしなければならないことが分かった。 ・「流れる水のはたらき」を学習し,流れる水の働きと生活との関係に興味関心

		をもち，さらにその関係を自ら調べようとした。 ・学年オープンで，フナ・タナゴ・メダカ・コイ・モロコ等を飼育している。
6年	理科 社会科	・自然環境や環境汚染のメカニズムを学習し，現在の地球のようすを科学的に学んだ。 ・世界の中で温暖化や環境汚染（中国の大気汚染やブラジルでの森林伐採など）が進行していることを学び，日本が，周りの国々と共存しながら平和な国をつくっていかなければならないことを学んだ。
特別支援学級	校内合同学習	・畑で，夏野菜（ナス・キュウリ・トマト・いんげん・ピーマンなど）を栽培し，観察を行った。 ・昨年仕込んだ味噌をあけ全教職員に味見をしてもらった。豚汁も作った。 ・今年度も地場の大豆や無農薬栽培の大豆を使って味噌づくりを行った。 ・バケツ稲の栽培を行い，わらは，正月飾りに利用した。 ・育てた数珠玉を使って，お手玉づくりに挑戦した。

＜第４学年・霞ヶ浦湖上体験＞

＜特別支援学級・お手玉づくり＞

（２）学校全体での取り組み

本年度も，玄関近くに「発見！松ケ丘小」という掲示コーナーをつくり，写真と文で各学年や学校全体に関する“今”を紹介した。校庭や観察園，４年前にどんぐりの苗を植えた「どんぐり林」には，季節ごとに新しい発見があるので，広く知らせるようにした。

また，「ボランティア委員会」の活動として，児童が主体的に，ペットボトルのチャップ集めや「緑の羽募金」を行った。緑を増やすことが地球環境に与える影響を学習し，毎朝，昇降口で宣伝活動をしたので，多くの募金が集まった。

３　考察と課題

今年度，観察園や畑で草花や野菜を育てる学習を行い，児童は身近に観察することができた。家庭で動植物に触れることが少ない児童が多いので，学校教育が果たす役割は大きいと実感している。

教科ごとに各学年ともさまざまな環境に関する学習をしているが，常に自分達の生活と密接に関わらせて考え行動させることが，引き続き今後も課題である。

環 境 教 育 の 実 践

守谷市立守谷中学校　担当　南　まち子

1　はじめに

本校では，環境教育を実施するにあたり「よりよい環境を求めて，未来を切り開く生徒の育成～生徒自ら学び，考え，行動する環境教育～」というテーマを設定して教育活動を継続して行っている。生徒会を中心として，園芸・福祉委員会の活動として校内の美化運動に取り組んでいる。また給食委員会を中心に給食を残さない，ゴミの分別の徹底などを行っている。今後も，自分達の住む守谷市の環境を基盤として，様々な環境問題に目を向け，自ら課題を探し行動できる生徒の育成に努力していきたいと考えている。

2　実践

（1）教科における環境教育

各教科において，環境問題に視点をおいた題材があり，積極的に環境教育との関連を図るよう努力している。教科書の改訂に伴い今年度は教材の再確認をした。道徳や学級指導でも，自然や生命に対する畏敬の念や奉仕的精神の高揚を目指して年間計画の見直しを行った。

①　理科

1年「水溶液の性質」

水を汚染する原因と環境について学習する。廃液処理の仕方と理由を理解する。

「植物の生活と種類」

学校や学校周辺の植物を観察し，植物と生えている場所の特徴に関して学習する。

2年「動物の生活と種類」

動物の観察や分類の学習を通して，自然保護や動物保護について考える。

3年「科学技術と人間の生活」

身のまわりの新素材や環境に優しい技術について調べ，資源保護について学習する。

「自然と人間」

地球規模での環境の変化について学習し，自然災害や自然からの恩恵について学ぶ。

②　社会科

1年「日本の諸地域～九州地方～」

環境問題・環境保全に向き合う人の暮らしについて調べる。

3年「地球社会とわたしたち」

地球環境を守るための世界各国での取り組みを理解する。

③　技術科

2年「技術とわたしたちの生活」

環境を考慮した技術の学習であることを理解し，製品の製作の際は，環境にやさしいものづくりについて考える。

④　家庭科

1年「簡単な日常生活の調理」

調理実習を通し，効率よく材料を購入する方法や熱源を使用する方法・食器の洗いる方を考えることで，環境に配慮することを学習する。

（2）特別活動他における環境教育

主な活動計画	備　　考
・生徒総会 ・校内緑化運動　プランターの設置 ・校内環境美化活動 ・体育祭 校舎内外の清掃，プランターの設置 ・守谷駅構内における挨拶運動 ・朝のあいさつ運動	全学年 園芸委員会 給食委員　全学年 全学年 生徒会役員・生活委員 生徒会役員・学級委員・生活委員 全学年

（3）校内緑化運動における環境教育

園芸委員会を中心にプランターの設置，グリーンカーテン（ゴーヤ）（写真①、②）

写真①　　写真②　　写真③

（4）食育を通しての環境教育

給食委員会を中心にストローや牛乳パックなど資源ごみの分別回収（写真③）を進めている。また，給食を残さず食べることが健康な体を作るとともにゴミの量も減らせることなどを PR し食育を通しての環境教育を進めている。

3　考察

各教科における学習の中で，生徒の身近な問題，自分たちの生活に直接関わる問題を取り上げることは，知識を高めるだけでなく，日常生活の意識向上につながると思われる。園芸委員会による校内環境の整備や福祉委員会のペットボトルのふたの回収など継続した活動により，自分達の学習する環境を整えることへの意識が高まってきたと考えられる。守谷市の玄関口である『守谷駅』で地域の人々へ向けての挨拶運動や朝のあいさつ運動を行っている。また，その往復の際に地域のゴミ拾いなどクリーン作戦も実施している。人的環境作りと合わせて，今後も継続できる活動であると考える。また，部活動単位でも「一日一つゴミを拾う」などの目標を作り，環境美化に努めている。

4　課題

環境教育と各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間との関連を図るために，年間計画の見直しや教師の環境教育に対する意識を高める努力をしている。今年度，放射能の測定結果により生徒による地域のごみ拾いや教室ベランダの清掃，学校菜園の収穫などが自粛された。それに代わる実践的な環境教育の場を考えることが今後の大きな課題である生徒の健康を最優先にした計画を立て，環境教育への継続した取り組みを実践していきたい。

環境教育の実践

守谷市立愛宕中学校　担当　藤牧　祐介

1　はじめに

本校には野鳥の森という自然豊かな森が隣接しており，全生徒が野鳥の森少年団を結成し，守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」と協力しながら環境整備や清掃などのボランティア活動を行っている。これらの活動は守谷市が「リブコム住みよいまちづくり国際賞」の銀賞を受賞できた取り組みの１つである。世界的な評価を受けることができたことで，生徒が地域の自然環境に誇りをもち，環境について更に深く考え実践できる環境が整いつつあるといえる。更に今年度本校は，学校全体での環境美化教育活動が認められ，食品容器環境美化協会の『環境美化教育優良校』を受賞することができた。このような取り組みや恵まれた環境を積極的に活用しながら，教育活動の全領域において，環境問題や環境保全について学ぶ機会を多く設定し取り組んだ。

環境美化教育優良校
野鳥の森整備で受賞
守谷・愛宕中

空き缶のリサイクル」を実践している全国の小中学校などを対象にし
行われ、今年で13回

田口和夫伊藤徒が
園茨城地区本藤園
部長から賞状区本
を受ける高橋員で
樹里さんと早長の
坂暢晃君（右年）
から＝守谷年）
市本町の市立贈ら
愛宕中部屋

「公共の場所ちづ
美化」「飲料同市
」経過
「中
「リ
谷」

平成 25 年 2 月 16 日茨城新聞

2　実践

(1)　理科

・「植物の生活と種類」　１学年

「植物の分類」の学習を通して，生物界の多様性について知ることができた。具体的には隣接する野鳥の森を教材として観察を行い，様々な植物の観察を行うとともに，多様な生物が森を中心に生活している様子を学ぶことができた。また，植物の光合成のはたらきを調べる実験・観察を行い，地球温暖化の原因となる二酸化炭素を一時的に蓄えることができる事や植物を増やすことで，二酸化炭素の増加を防ぐことができる事を学んだ。

・「自然と人間」　３学年

これまで学習してきたことを総合的に捉え，自然と人間が調和していく方法を考察した。具体的には「未来の都市・家を考えよう」という課題を設定し，自然に優しい未来の都市や家について，インターネットを活用し，最先端のエコ技術について探求したり，野鳥の森での活動を参考にしたりして，グループで話し合いを行うなどの活動を行った。自然に優しい環境づくりを考えることを通して，現在起こっている環境問題を理解し，世界で様々な取り組みが行われていることや一人ひとりの環境に対する実践の大切さを学ぶことができた。

(2)社会科

・「国際問題とわたしたち」３学年

地球上で起こっている様々な環境問題について学んだ後，地球温暖化や大気汚染などの環境問題や世界中で行われている対策について話し合いを行い，環境問題について理解を深めた。

(3)技術・家庭科

・「わたしたちの食生活」１学年

健康に良い食習慣を考えた献立作成において，食材を無駄なく使うことを考えながら献立を立てた。調理実習では，ごみの分別に「エコゴミ箱」を使用したり，皮への影響を考えて洗剤を薄めに使うことを心がけたりして，活動ができた。

・「技術とわたしたちの生活」　１学年

製品の設計・製作の学習において，限りある資源を無駄なく有効に使うために，設計の仕方や製作の仕方について学習した。杉の間伐材などを利用し，リサイクルを心がけた作品製作を行った。

・「わたしたちの生活とエネルギー」　２学年

自然界の様々なエネルギー資源を生活に利用していることや，その資源の枯渇や地球温暖化，環境の汚染などの課題が多く生まれていることを学習した。その後エネルギー変換に関する技術の理解を深め，エネルギーの有効活用について学んだ。

(4)　特別活動

・　生徒会活動

これまでインクジェットカートリッジやエコマーク，ペットボトルの蓋の回収について呼びかけを行い，回収してきた。今年度は更にアルミ缶の回収を加え，生徒会を中心に全校集会を計画した。製造の際に電気を多く使うアルミ缶のリサイクルによって省エネができることを紹介するなど，リサイクルの大切さを全校生徒で学ぶ機会を設けた。また，環境整備委員会を中心にごみの分別を呼びかけ，少しでも再利用の効率をよくし，ごみを処理するときの環境への影響を考えられるようにした。緑の羽根募金を活用し，校内の花壇に季節に合わせた植物を育てる環境を作り，園芸委員会を中心に栽培を行うことができた。

(5)　ボランティア活動

・ 野鳥の森でのボランティア活動

守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」と協力して開通させた遊歩道の拡張・整備や野鳥の森周辺の清掃活動を計画し，ボランティア活動を実施した。第１回目の活動では，ボランティアで募った生徒は１年生から３年生でまで１００人近くの生徒が参加した。グループに分かれ活動し，各グループには「守谷にエコミュージアムをつくる会」の方が入り，清掃活動をしながら野鳥の森の生き物についての説明をして頂いた。森の保全についての意識を一層高めることができた。第２，第３回目の活動では，木煉瓦道の拡張やステージ・ベンチの追加設置に地域の方々と協力して取り組む事ができた。

３　考察・課題

野鳥の森に隣接しているという恵まれた環境の中で，多くの自然に触れ，保全を体験する機会もあり，身近なところで自然環境について直接体験する機会が多くもてた。また，各教科での環境に関する学習により，広い視野で自然環境を捉える力が身に付いてきている。世界的な環境に関する課題を考えることができたり，身近な自然の大切さを学ぶことで資源のリサイクルに積極的に取り組んでいこうとする姿勢も生まれたりしている。来年度は，野鳥の森の整備を更に進めていく計画がある。自然環境の保全に深く関わっていく絶好の機会となるので，生徒会活動を活性化させながら，今後も環境教育について全教科領域で取り組んでいきたい。

環境教育の実践

守谷市立愛宕中学校　担当　藤牧　祐介

1　はじめに

本校には野鳥の森という自然豊かな森が隣接しており，全生徒が野鳥の森少年団を結成し，守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」と協力しながら環境整備や清掃などのボランティア活動を行っている。これらの活動は守谷市が「リブコム住みよいまちづくり国際賞」の銀賞を受賞できた取り組みの１つである。世界的な評価を受けることができたことで，生徒が地域の自然環境に誇りをもち，環境について更に深く考え実践できる環境が整いつつあるといえる。更に今年度本校は，学校全体での環境美化教育活動が認められ，食品容器環境美化協会の『環境美化教育優良校』を受賞することができた。このような取り組みや恵まれた環境を積極的に活用しながら，教育活動の全領域において，環境問題や環境保全について学ぶ機会を多く設定し取り組んだ。

平成 25 年 2 月 16 日茨城新聞

2　実践

(1)　理科

・「植物の生活と種類」　１学年

「植物の分類」の学習を通して，生物界の多様性について知ることができた。具体的には隣接する野鳥の森を教材として観察を行い，様々な植物の観察を行うとともに，多様な生物が森を中心に生活している様子を学ぶことができた。また，植物の光合成のはたらきを調べる実験・観察を行い，地球温暖化の原因となる二酸化炭素を一時的に蓄えることができる事や植物を増やすことで，二酸化炭素の増加を防ぐことができる事を学んだ。

・「自然と人間」　３学年

これまで学習してきたことを総合的に捉え，自然と人間が調和していく方法を考察した。具体的には「未来の都市・家を考えよう」という課題を設定し，自然に優しい未来の都市や家について，インターネットを活用し，最先端のエコ技術について探求したり，野鳥の森での活動を参考にしたりして，グループで話し合いを行うなどの活動を行った。自然に優しい環境づくりを考えることを通して，現在起こっている環境問題を理解し，世界で様々な取り組みが行われていることや一人ひとりの環境に対する実践の大切さを学ぶことができた。

(2)社会科

・「国際問題とわたしたち」３学年

地球上で起こっている様々な環境問題について学んだ後，地球温暖化や大気汚染などの環境問題や世界中で行われている対策について話し合いを行い，環境問題について理解を深めた。

(3)技術・家庭科

・「わたしたちの食生活」１学年

健康に良い食習慣を考えた献立作成において，食材を無駄なく使うことを考えながら献立を立てた。調理実習では，ごみの分別に「エコゴミ箱」を使用したり，皮への影響を考えて洗剤を薄めに使うことを心がけたりして，活動ができた。

・「技術とわたしたちの生活」　１学年

製品の設計・製作の学習において，限りある資源を無駄なく有効に使うために，設計の仕方や製作の仕方について学習した。杉の間伐材などを利用し，リサイクルを心がけた作品製作を行った。

・「わたしたちの生活とエネルギー」　２学年

自然界の様々なエネルギー資源を生活に利用していることや，その資源の枯渇や地球温暖化，環境の汚染などの課題が多く生まれていることを学習した。その後エネルギー変換に関する技術の理解を深め，エネルギーの有効活用について学んだ。

(4)　特別活動

・　生徒会活動

これまでインクジェットカートリッジやエコマーク，ペットボトルの蓋の回収について呼びかけを行い，回収してきた。今年度は更にアルミ缶の回収を加え，生徒会を中心に全校集会を計画した。製造の際に電気を多く使うアルミ缶のリサイクルによって省エネができることを紹介するなど，リサイクルの大切さを全校生徒で学ぶ機会を設けた。また，環境整備委員会を中心にごみの分別を呼びかけ，少しでも再利用の効率をよくし，ごみを処理するときの環境への影響を考えられるようにした。緑の羽根募金を活用し，校内の花壇に季節に合わせた植物を育てる環境を作り，園芸委員会を中心に栽培を行うことができた。

(5)　ボランティア活動

・ 野鳥の森でのボランティア活動

守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」と協力して開通させた遊歩道の拡張・整備や野鳥の森周辺の清掃活動を計画し，ボランティア活動を実施した。第１回目の活動では，ボランティアで募った生徒は１年生から３年生でまで１００人近くの生徒が参加した。グループに分かれ活動し，各グループには「守谷にエコミュージアムをつくる会」の方が入り，清掃活動をしながら野鳥の森の生き物についての説明をして頂いた。森の保全についての意識を一層高めることができた。第２，第３回目の活動では，木煉瓦道の拡張やステージ・ベンチの追加設置に地域の方々と協力して取り組む事ができた。

３　考察・課題

野鳥の森に隣接しているという恵まれた環境の中で，多くの自然に触れ，保全を体験する機会もあり，身近なところで自然環境について直接体験する機会が多くもてた。また，各教科での環境に関する学習により，広い視野で自然環境を捉える力が身に付いてきている。世界的な環境に関する課題を考えることができたり，身近な自然の大切さを学ぶことで資源のリサイクルに積極的に取り組んでいこうとする姿勢も生まれたりしている。来年度は，野鳥の森の整備を更に進めていく計画がある。自然環境の保全に深く関わっていく絶好の機会となるので，生徒会活動を活性化させながら，今後も環境教育について全教科領域で取り組んでいきたい。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立御所ケ丘中学校　担当　後藤早苗

1　はじめに

東日本大震災から間もなく二年，自然の驚異に目を見張り，自然環境やエネルギー問題などが，日常の身近な距離にあり，切実な問題であることを身を以て知った。記憶に新しいことでは，今年五月，つくば市を襲った竜巻災害。尊い人命が失われ，家屋への被害も甚大なものであった。また猛暑の夏，水不足の問題も深刻となった。更に，年が明けての一月，爆弾低気圧による大雪などこれまでの常識では考えられない想定外の事態が発生している。その中で，本校は昨年に引き続き，現実に起きている環境問題の中で「自分に何ができるか」，「何をするべきか」を自らの問題として考え，一人一人ができることを見つけ，よりよい環境を維持するために継続して取り組む実践的な態度を育成することを目標として教育活動を実践した。

2　実践

（1）　学習活動における取り組み

ア　理科

・「地球の明るい未来のために」（２年）

学校周辺の自然環境や都市化の進む様子を取り上げ，自然環境の変化に目を向けさせ，人類の長い歴史の中で自然とどのように関わってきたか，自然がもたらすプラス面やマイナス面に触れたりしながら，地球の明るい未来のために自然環境の保全や科学技術の利用のあり方などについて考えた。

・「自然と人間」「科学技術と人間生活」（３年）

地球上には人間を含め，たくさんの生物が存在し，密接に関わりあって生活していることを理解した。また，人間の便利な生活が自然や他の生物に多大な影響を与えていることや，そのことが将来的に人間自身の生活環境に及ぼす影響についても考える機会となった。

イ　家庭科

・「被服」（２年）

昨年と同様，資源の有効活用の観点から使わなくなったものを再利用し，クッションやバック等新たなものに作り直した。無駄をなくし，アイデアと工夫を生かす制作活動は身近な環境を考える良い体験となっている。また，完成後の作品をクラスや学年で投票し，お互いの作品の良さに気付きあう機会を設けている。さらに作品は，学年以外の生徒や，保護者(授業参観等を利用して)にも公開している。生徒たちの様々な発想を生かした作品は，見る側にも楽しさと資源の有効活用のあり方を示唆するものとなっている。

ウ　保健体育

・「健康と環境」（２年）

身体に直接関わる環境について学んだ。人間の身体が環境の変化に対してある程度まで適応する生理的な機能を有することや身体の適応能力を超えた環境は生命や健康に害を及ぼすことがあることを学んだ。また，健康と飲料水や空気との関わり，生活によって生じた廃棄物の衛生的な処理の必要性などについて学ぶ中で，生徒自身の水の使い方や守谷の上下水道などについて認識を新たにすることとなった。

（２）部活動（科学研究部）の取り組み

急速に都市化が進む守谷市内の大気環境を知るために守谷市郊外に生育しているナミガタウメノキゴケを用いて調査方法と評価方法を開発し，大気環境との相関関係を明らかにすることを目的に研究が進められた。その結果，二酸化窒素濃度と地衣類の成長度に相関関係があることがわかった。その結果を県科学研究作品展で発表する機会を得た。本年度も，その研究を継続した。さらに，地衣類の成長度を数値化して評価する方法を開発し，二酸化窒素濃度を１つの指標とした大気環境と移植した地衣類の成長度との相関関係を明らかにした。データ量を増やし実験の精度を高める努力も重ねた。結果，第５６回日本学生科学賞（応募総数・１１５５６点）の中央審査において文部科学大臣賞に輝いた。真摯で地道な取り組みは，校内の生徒に環境問題をより身近なものとし，継続して取り組むことの大切さを深める出来事となった。

（３）特別活動・その他の取り組み

生徒会が月一回行う校舎内外クリーン作戦，緑化委員会の緑の羽根募金・花壇作り・通学路の花植え，校内掲示用の環境ポスターの作成，生活委員会及び生徒会の朝のあいさつ運動，地域で行われる夏祭り後のクリーン作戦へのボランティア活動も継続して実践している。どの取り組みに対しても，生徒の積極的な参加がみられた。

３　考察

今年も各教科・特別活動・部活動や・身近なところで起こった竜巻・水不足・豪雨などの自然災害を通じて身の回りの様々な環境問題について学び，考えることとなった。「人間は環境を変える動物だ」といわれるが，今日まで衣食住など様々な面で快適さや便利さを考え環境を変えてきた。その結果が今，身近に起こる災害や環境問題につながっていると思われる。最近，新たに耳にする大気汚染物質ＰＭ２，５も気になるところであるが，情報に振り回されず正しい知識を得て，適切な対処ができるようにすることが大切だと考える。

４．課題

個人ができること，取り組めることには限界がある。しかし，何もしなければ環境はさらに悪化する。ごみの分別なども可燃，不燃，ペットボトル，ビン，缶，プラスチック，資源と細分化されているが，面倒と思わず小さなことから継続して取り組むことが大切である。本校に「環境が人を作る。」されど，その環境は人が作る」という言葉が掲げられている。環境問題に直接関わる人間そのものの地道な実践，努力こそが一層必要であることを共に考えていきたい。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立けやき台中学校　担当　古谷　淳一

1　はじめに

本校での環境教育では，昨年度に引き続き，環境問題についての意識を高めることが重要であると考え，下記の３つの視点を掲げて実践している。

『環境教育３つの視点』

○　さまざまな環境問題の現状を知り，環境問題への関心を高める。

○　自然環境のしくみについて理解を深め，地球環境を大切にしていこうとする意識を高める。

○　自分たちにもできる環境保全策を考え，実践していこうとする態度を育てる。

本年度も，各教科での実践を中心に，道徳，生徒会活動等の特別活動でも環境問題に取り組んだ。

2　実践について

（1）各教科における取り組み

【国語】

２年「情報検索で開ける世界」で，バイオエタノールに関する２つの記事を読んで考える学習の中で，ガソリンに替わる自動車用燃料として注目を集めていることと，食料価格の高騰を招き，開発途上国の食糧問題を深刻化させているという現実を知り，環境問題の二面性について考えを深め，環境問題への関心を高めた。

３年「絶滅の意味」で，トキやリョコウバトの絶滅という事実から，絶滅を引き起こしてきた人間社会の在り方と，生態系の維持との関係について，自分の考えをまとめる学習の中で，自然環境のしくみについて理解を深めた。

【社会】

１・２年

「南アメリカ州－開発の進展と環境問題－」で，アマゾン川流域の自然環境と共生する人々のくらしが地域開発による森林の伐採や道路の建設，食糧やバイオエネルギーの増産のためにおびやかされていることから，環境保護の必要性を認識させ，環境問題への関心を高めた。

３年「わたしたちのくらしと経済」で，日本の主な公害の学習を通し，発生の防止だけでなく地球環境問題への関心を高め、循環型社会の実現を目指して努力する態度を育てた。

【理科】

１年「植物の生活と種類」で，校内の植物観察を通し学校周辺の植物相についての理解を深めた。

２年「夏休みの自由研究」で，身近な環境問題に着目し，研究を進める生徒が多く，温暖化や紫外線の影響に対し，理解を深め，地球環境を大切にしていこうとする意識を高めることができた。

３年「自然界のつり合い」で，生産者，消費者，分解者のはたらきを通して，物質が自然界を循環していること理解し，すべての生物がつながっていることに気づき，自然を大切に保全しようとする態度を育てた。

【英語】

３年「Stop Global Warming」の読み物題材で，温暖化の影響や温暖化防止への取り組みにふれ，自分たちにもできる環境保全策を考えた。

【美術】

下水道ポスターの制作を通し，水資源の利用に対する意識を高めた。また，学校行事の装飾には，校内の廃段ボールを再利用し，リユースの実践を心がけた。

【技術・家庭】

１年「材料と加工」，２年「わたしたちの消費生活と環境」

持続可能な社会のための技術を学び，リデュース，リユース，リサイクルの３Ｒを推進する大

切さを知り，これからのものづくりは効率化だけでなく，廃棄物の削減，リサイクル，ごみを出さないものづくりが求められていることについて理解を深めた。また，循環型社会の推進，グリーンコンシューマーの育成を通して，環境を守ることの実践を行う態度を育てた。

３年「生物育成」で，ナスの栽培を行い，単に食料を生産するだけではなく，二酸化炭素を吸収して酸素を放出する，気温の上昇を抑える，農地に雨水を蓄えて水害を防ぐなど，環境に大きな影響を与えていることを理解した。

（２）道徳・特別活動における取り組み

【道徳】

１年「マータイさんといっしょに私たちの地球を考えよう」という題材では，ハチドリの言葉やマータイさんの行動を通し，自然の素晴らしさと地球に生きる仲間の連帯の素晴らしさにふれ，「できることから始める」というマータイさんのメッセージから，自分たちにもできる環境保全策ついて考えを深めた。

２年「ツバルー海抜１メートルの島国ー」という題材では，地球温暖化，自然との共生について話し合い，自然環境を守り自然と共生していくために何ができるかを考え，実践していこうとする態度を育てた。

３年「環境ホルモンを知っていますか？」という題材では，人間が自然界にさまざまな化学物質をたれ流した結果，野生動物を大きな危険にさらしていることを知り，自然界という環境の中で生きていく人間の存在に対する意識を高めた。

【特別活動】

生徒会では，中央委員やボランティア委員による始業前の学校周辺の清掃活動を行った。園芸委員による花壇の植え替え・水かけ，美化委員による清掃用具の修理等も環境教育の実践の１つといえる。

（３）特別支援学級における取り組み

プランターを利用し，ミニトマトの栽培をし，発芽や成長のようすの観察・記録を行った。また，ミニトマトを収穫する喜びを味わうとともに，植物を育てる大変さを学んだ。

３　考察

環境問題というと公害など地域における問題として取り上げられることが多かったが，現在では地球全体の問題としてとらえられることが多くなってきた。このことは個人で環境問題に取り組むことの大切さが増してきたということでもある。つまり一人一人の小さな取り組みが地球全体に影響を与えることを認識することが重要になってきたわけである。本校の環境教育では，この「小さな実践の積み重ね」を重視してきた。低炭素社会・循環型社会・持続可能な社会という目指すべき姿に対し，中学生としてできることは何かを考えさせ，小さいことから実践していく態度を育てることを各教科・領域で推進している。この活動を今後も継続することにより，本校の環境教育を発展させていきたいと考えている。

４　今後の課題

環境教育で今大切なものは何だろうか。自分を取り巻く自然環境や社会環境に対する豊かな心情をもつことではないだろうか。実際にふれることのできる自然環境が少ない本校では，自然環境に対してふれあう機会が多いとはいえない。特に動物との接触は特に少ない。この点の改善が大切ではなかろうか。理科室のメダカやイモリを授業のたびにながめていく生徒が多いことがそのことを物語っているように感じる。次に，環境に対する疑問や気づきを大事にすることではなかろうか。そこから推論し，科学的に判断し，自らの考えを表現していく態度こそ，環境教育の目指すものではないだろうか。そこから環境保全のためにどのような行動をとるべきか考え，協力して問題を解決することに結びつけたい。

最後に，各教科ごとにさまざまな環境教育の教材を取り扱っているので，教科の枠を超えて環境問題に取り組んでいける体制づくりと計画的な実践が大切なことだと考えている。